

## 算数の授業

野崎亮平

(教育実践コース1年)

私は、惠州附属学校の小学5年生を対象に算数の授業を行った。

まず、授業の構想段階で気をつけた点が二点ある。一点目は、パワーポイントや図を用いての説明を多く取り入れた点である。言葉が通じない分、図を多く用いて説明することでスムーズに授業が進むように心がけた。二点目は、日本の文化に少しでも触れられるように授業を構想した点である。私は、算数を専門に研究をしているため、日本の伝統の遊びである折り紙と算数の内容である正三角形の作図をつなげて授業を構想した。また、この授業は、片桐重男先生の新潟算数教育研究会での講演を参考に構想した。

次に実際の授業についてである。私が実践したクラスには通訳の他に自動翻訳機が設置されており、私が話した言葉を機械が翻訳して児童に伝えてくれた。また、うまくいかなかった点に関しては、授業構想が甘く手立てが有効でなかったことや、児童の実態がわからない状態で授業を構想したため難しかったこと、悩んでいる児童とのコミュニケーションがうまく取れなかったことが挙げられる。ただ、児童が考えて自己解決しようとする姿は多くみられた。折り紙を全員に配布しパワーポイントで示して操作させたことは、子どもにとって有効な手立てであったのだと感じた。今回の実践を通して、改めて児童が考えて自己解決していく授業の難しさを感じた。

今回の実践の感想について述べる。まず、中国で授業を行うという、他にはないような貴重な経験ができたと感じる。どの国においても考える子どもの姿は同じなのだと感じることもできた。この訪中授業に参加するまでは、日本の学校また児童は優秀であると思い込んでいた。しかし、実際に授業を参観し、また授業を行うことで考える児童の姿や中国の先生の授業を体感し、自身の視点はかなり広がったと感じる。私は、2019年4月から1年間中国へ留学に行く予定である。そのきっかけになったのも、

中国での授業が1つに挙げられる。中国で、中国語を習得するために勉強するのはもちろんのこと、中国の授業を吸収し、もう一度中国の子どもたちの前で授業を行いたい。

最後に今後の展望である。前にも中国へ留学することを書いたが、私は今後、中国と日本の学校のつなぎ役として活躍できる教師になりたいと考えている。今回の訪中視察や授業実践を通して、中国の授業の素晴らしさ、また国際交流の身近さを感じることができた。私は今後、国際感覚を身につけ常に国際的な教育情勢に気を配り、また日本と中国のつなぎ役として活躍できる教師を目指していきたい。